



失敗の科学

失敗から学習する組織、失敗できない組織

マシュー・サイド
Discover 21社
(2016/12)

誰もが避けがちな失敗を活かすべく、失敗の構造を解き明かし、成功に変える方法を解説されています。

【感想】

「失敗をすると、お客様の信用を失うのでできれば失敗したくない…」

「また失敗をすると上司に怒られるから失敗は隠したい…」

私たちは「**失敗**」という言葉に対して上記のようなマイナスなイメージを持っているのではないのでしょうか？

実際、ミスを起こすことで、お客様に迷惑や損害を及ぼす可能性があり、取り返しのつかない事態になりますし、上司からの評価も下がる傾向にあります。

しかし、実際に社会には「失敗から生まれた商品」も数多くあり、「失敗は成功の母」という言葉も聞いたことがあるでしょう。

そこで本書では、失敗の機能を明らかにすべく、医療業界・航空業界での過去の事例や失敗の研究を取り上げ、物事の失敗を繰り返す原因や構造を解き明かし、失敗から学び成長に変えるマインドやスキル、ゴール設定を紹介しています。

以下に、失敗から成長に変える具体的な思考方法と行動を紹介します。

- ① 失敗には原因があり、そもそも原因をつぶすことが大切。
- ② とはいっても、人は失敗するの、これをうまく切り替えるには成長マインドが必要。
- ③ 失敗を多く重ねることは成長につながる。

【以下引用】

人はどうして失敗を繰り返すのか(why)

① 曖昧なゴール設定をしてしまうこと

曖昧なゴール設定ができてしまっている場合、「つまりどうするの？」と問いかけて具体的な数値目標や条件設定を行ないましょう。

② 失敗を隠してしまう(認知的不協和)

人はだれしも失敗を認めずに、自己正当化を行い、辻褃合わせを行なってしまいます。人にはその傾向があるという事を認識しておきましょう。

③ 非難してしまう事

ミスを責めてしまうことによって、人間は失敗を報告することが怖くなり、失敗を報告しなくなり、隠ぺいしようとしてしまいます。

失敗は責めずに、失敗は成長のもとと考えて、非難はできるだけ避けましょう。

失敗・ミスの情報共有、原因分析、情報蓄積を行うことで少しずつ改善につなげていくことが大切です。